

平成29年度の学校評価

1. 自己評価結果等

<p>前年度の重点目標</p>	<p>1 学ぶ目的意識を明確にし、真摯に取り組む態度を育て、グローバルな視野でビジネス活動のできるビジネスリーダーと、地域の伝統・文化を理解し、地域で活躍できるビジネスリーダーを育成する。</p> <p>2 商業教育中心校としての誇りと自覚を常に持ち、生徒が生き生きと楽しく活動できる学校づくり、教職員にとってやりがいのある学校づくりを目指す。</p>		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
<p>生徒指導 (生徒指導課)</p> <p>(2年学年会)</p> <p>(1年学年会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラルを向上させ、SNS等によるトラブルを未然に防止する。 コミュニケーション能力の向上を図り、豊かな感性を育む。クラスにおけるリーダーの育成および学年の団結を固める。 基本的生活習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 「防犯教室」「道徳講話」を実施し、身近なテーマとして考えさせる。 アンケート調査による意識調査を行い、適切なテーマ、話題を絞り、朝会の講話や風紀委員による呼びかけで情報モラルを向上させる。 朝学やHRを活用して、相手の思いを読み取る力、自分の考えを伝える力を高める。また、学校行事を通じて、役割を与えたり、責任感を持たせたりするような取り組みを実施する。 授業規律の確立 生徒指導課と連携した、遅刻指導 身だしなみ指導の徹底 部活動と学業の両立 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート調査の結果では、SNSの危険性を97%の生徒が理解できたと解答している。しかし、1年間を通してSNSによる生徒間トラブルがあったので、今後も継続的な指導が必要であると感じている。 進路講話、朝学1分間スピーチなどの活動の中で、自己を見つめながら将来の進路を考えるようになった。また、他人の考えを聞いて共感したり、自分の意見と照らし合わせ発言できた。 修学旅行、学年企画、室長会を通して自主性、責任感、リーダーシップを育てることができた。 多くの生徒は基本的生活習慣も概ね確立していた。学校の規律を守り、時間を意識した行動がとれていた。 室長、副室長を中心として学年行事を企画するなど、集団をまとめる機会を多く持つことができた。
<p>学習指導 (教務課)</p> <p>(経理科)</p> <p>(事務科)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的・協働的な学び」を意識した授業展開の充実 経理教育の充実と指導方法の研究 発展的なマナー教育と経理教育に対する効果的な指導方法の研究 	<ul style="list-style-type: none"> 教科主任会と連携し、アクティブ・ラーニングの展開事例を共有し、効果的な実践方法を検討する。 公開授業週間においては、教科や担当科目の枠を越えて、期間中1回は授業を参観し合い、多様な指導方法に触れる機会とする。 経理に関する内容をより深く考えて理解し、情報を的確に読み取り、判断し、分析できる能力を育てる。 外部講師の活用により、会計に興味を持ち、積極的に上級資格取得に取り組むことができるように、授業展開を工夫する。 講師招聘や連携教育を実施し、実務やマナーを習得させ、実践できる機会を数多く設定する。 経理教育の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 現行の授業をベースに、講義型授業と参加型授業をバランスよく取り入れ、さらに学習活動がアクティブ化するよう、授業展開を意識する。 授業を参観し合うことで、自身の指導技術の向上と研鑽に努めることに主眼を置く。また、教科の特異性を知る機会としても活用する。 外部講師の活用やグループ学習により、諦めずに取り組もうとする姿勢が生まれた。 発展学習や高大連携により、上級の資格取得に関心を持つ生徒が少し増え、次年度につながる授業展開を実施することができた。 幅広い資格取得に取り組み、生徒個々の能力に対応した授業展開を実施することができた。また、受付や接待など接遇・マナーの実践の場を設け、外部講師による専門学校との連携教育も実施をすることができた。学校設定科目の授業展開を確立することができた。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
学 習 指 導 (情報処理科)	<ul style="list-style-type: none"> 情報リテラシー教育の充実 新科目の指導方法の検証 	<ul style="list-style-type: none"> 情報活用能力の意義を理解させ、それを発信することも意識した学習態度を育てる。 小学科委員会を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータ室の利用方法に課題が残った。今後も継続的に情報教育の中心としてマナー・モラルを指導していく必要性を感じる。 研究内容の情報共有を図る。
(国際ビジネス科)	<ul style="list-style-type: none"> 多くの外国語に対して、興味・関心をもたせ、実践的な授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国の文化や生活習慣に関心もち、正しく理解する。 多くの外国語の習得を通じて、異文化間の相互理解力を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師による講話や専門学校・大学との連携教育を実施し、国際理解を身に付けさせる。 年間を通したE S D教育の取り組みとなるよう努める。
(図 書 課)	<ul style="list-style-type: none"> 図書館の利用促進とデータベース化 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のみならず職員に対しても図書館の利用を積極的に働きかけるとともに、魅力ある図書館づくりを心がける。 図書についてパソコンを利用したデータベース化を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に比べて図書の貸し出し数や図書館の利用数が減少してしまった。また図書のデータベース化が100%完了できなかったため、完了させたい。
進 路 指 導 (進路指導課)	<ul style="list-style-type: none"> 将来のビジョンを持ったうえで、目標(進路)実現を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 「夢のマッチングフェア」などを活用し、企業・上級学校の情報を手に入れる機会をもたせる。 「調べ学習」をとおして、相談室の資料(就職四季報・業界図鑑・大学の实力など)の活用を促す。 毎月配布するプリントから世の中の変化を知り、自分の考え(意見)をまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体として、2年生の取り組み姿勢に課題を残す結果となった。次年度の進路選択に支障が出ないように、自分と向き合う大切さを伝えていく必要がある。 専門学校は進学先がかなり早い段階で決め打ちされ、大学は準備不足のまま進学先が決定されており、将来に不安を残す結果となった。それぞれ、出口を見据えた上で早めに受験準備をする大切さを伝えていく必要がある。
(3年学年会)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の能力・適性の自己理解と、先を予測した行動による進路希望の実現を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自身が自らの進路を主体的に考え、先を予測して行動し、より良い選択ができるように、適切な情報提供及び助言や指導に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の多様な進路希望に対応し、適正な進路指導ができた。就職希望者に比べると、進学希望者の意識や行動に遅れやばらつきを感じる面はあったが、先を予測した行動ができていた。
生 徒 会 活 動 (生徒会課)	<ul style="list-style-type: none"> 「ユネスコスクール」認定校に伴う生徒会活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 執行部と各種常任委員に全校生徒の意見を掌握させ、E S D企画を立案させる。 生徒会執行部とユネスコクラブなどの他の部活動との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部が中心となってE S D企画を立案し、活動を促す。 全校生徒の取組を常に意識させるような活動を目指す。
環 境 美 化 (保健課)	<ul style="list-style-type: none"> ゴミの分別と紙ゴミの再生についての指導と定着 	<ul style="list-style-type: none"> ゴミの回収方法を、分別が徹底できるように指導し定着を図る。 美化委員を活用し、生徒の美化意識の向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ゴミ分別の方法を改善して4年目になる。ゴミ分別の方法と紙ゴミの再生については、かなり生徒に定着したようである。来年度も以降も美化委員を活用し、学校の美化活動の推進を図っていきたい。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
P T A 行事 (総務課)	・教職員の協力を得て、会員のP T A行事への理解を一層深める	・役員及び理事が自ら企画を設定し、参加者の増加を図れるよう役員会理事会を設定する。 ・学年会との連携をとり、保護者との連絡を密にする。	・P T A行事の企画・運営を、P T A役員及び理事の方々が積極的に行っていた。 ・学年会との連携については、まだ不十分な部分があるため改善していきたい
情報管理 (教育情報課)	・校務支援システムの更新に伴い、周知をはかるとともに、作業効率の向上を目指す。	・変更点について、マニュアル等を生かして周知する。 ・変更点を生かし、より効率的な運用体制を構築する。	・校務支援システムの更新に対し、混乱なく対処することができた。 ・教務との連携により、目立った問題は発生しなかった。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学習面ではグループワーク等のアクティブラーニングを積極的に取り入れ、より主体的で対話的な深い学びが実践されるよう全体で取り組むことができた。 ・マレーシアの姉妹校スリプトゥリのホームステイを受け入れたことや、書き損じはがきでの募金活動、マライカの翼プロジェクトの継続により、E S Dの取り組みが学校全体に浸透し、ユネスコスクール認定校として生徒の意識が向上した。 ・生徒会や学年会を中心に取り組んだ修学旅行や学校祭においては、常に自ら考え行動させることにより、生徒の積極性や自主性が生まれ、生徒は様々な場面でリーダーシップを発揮することができた。 		

2. 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した 主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒がいきいきと楽しく活動できる学校づくり ・教職員にとってやりがいのある学校づくり ・保護者、地域にとって開かれた学校づくり
自己評価結果について	<ul style="list-style-type: none"> ・授業にアクティブラーニングを積極的に取り入れ、より主体的で対話的な深い学びが実践されるよう全体で取り組むことができた。 ・継続したE S D活動の取り組みにより、ユネスコスクール認定校としての生徒の意識は徐々に向上している。 ・修学旅行や学校祭において生徒会や学年会は、生徒に対して常に自ら考え行動させることに重点をおき働きかけた。その結果、生徒の積極性や自主性が生まれ、生徒は様々な場面でリーダーシップを発揮することができた。
今後の改善方策について	さらなる活力ある学校づくりと体験入学や中学生向け説明会を充実させることで商業高校の魅力を発信する。
その他 (学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)	<ul style="list-style-type: none"> ・商品開発や各種コンクールに出場し成果をあげている。学校の雰囲気も良く、子どもたちが活躍する場が多く用意されている。 ・学校行事等に男女とも一生懸命に取り組んでおり、学校が楽しいことが伝わってくる。元気が良く、挨拶ができ、よく指導されている。 ・愛知商業の活動や活躍を中学校進路指導委員会において紹介している。今後も地域と連携した活動を継続していくことで、商業高校の魅力を発信し、理解を求めることが重要である。 ・入試制度の変更により生徒募集に影響がでている様子であるが、外部との連携や体験入学等で商業高校の魅力を発信していくことが重要である。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	構成 保護者、地域連携・中高大連携・地域企業の関係者 評価時期：10月、2月